

事務事業名	桃源文化振興協会運営支援事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12520							
			所属課室	生涯学習課		課長名	新津 岳							
	☐ 実施計画事業		所属担当	生涯学習担当		担当者名	笹本芳美							
基本政策	基本計画体系	V	個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目			
		22	生涯学習ネットワークの整備充実		01	一般	1	0	0	4	0	6	0	2
政策		35	生涯学習システムの推進	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金									
施策														
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 年度） ☐ 期間限定複数年度（ 年度） ～ 年度）			法令根拠										
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 南アルプス市の芸術文化の拠点である桃源文化会館を維持管理する事業。(財)桃源文化振興協会の職員7人分の人件費について補助金として交付している。			事業費の主な内訳（ 22年度 ）										
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)							
				人件費補助金	42,447									
								計 42,447						

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	(財)桃源文化振興協会の職員の人件費について補助金を交付し、専門的な文化・芸術の企画運営の向上を図る。
23年度活動予定	(財)桃源文化振興協会の職員の人件費について補助金を交付し、専門的な文化・芸術の企画運営の向上を図る。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
市民 桃源文化振興協会の職員	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
専門性のある職員の充実により、市民の文化・芸術にふれる機会が増え文化芸術活動への関心が高まる。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
生涯学習等の環境が整備されることにより、市民の利用が増え、文化を育む都市づくりにつながる。	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア利用者数	人
イ発表会等事業開催数	回
ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア人口	人
イ桃源文化振興協会の職員数	人
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア発表会等事業参加者数	人
イ	
ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア南アルプス市が文化にあふれるまちと感じる人の割合	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	37,498	42,447	44,301	44,301	44,301	
		事業費計 (A)	千円	37,498	42,447	44,301	44,301	44,301	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	10	10	10	10	10	
		人件費計 (B)	千円	45	45	40	40	40	0
		(A)+(B)	千円	37,543	42,492	44,341	44,341	44,341	0
活動指標	ア	人	85,487.0	86,000.0	86,000.0	86,000.0	86,000.0	86,000.0	
	イ	回	48.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
対象指標	ア	人	73,000.0	73,000.0	73,000.0	73,000.0	73,000.0	73,000.0	
	イ	人	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	
成果指標	ア	人	85,487.0	86,000.0	86,000.0	86,000.0	86,000.0	86,000.0	
	イ								
上位成果指標	ア	%	51.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	
	イ								

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	生涯学習センターの管理運営業務を効果的かつ効率的に実施するため、専門性のある職員を充てたことによる人件費。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	文化芸術面での専門性が優れている職員を配置しているので、文化振興活動がより活発になっている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	専門性、経験、実績を活かした独自事業の企画、実施が期待できるとともに、利用者の増加が図られると、市民から寄せられている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	人事課においてヒアリングを行ない、人件費の見直しを行なっている。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	人件費の見直し

事務事業名	桃源文化振興協会運営支援事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	----------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 事業を実施することにより市民が各種開催事業に参加しやすくなり、住民サービスの向上につながるの上位目的と結びついている。	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 専門的知識を備えた職員を充実させることは、芸術文化の拠点である桃源文化会館を維持するために必要であるので、事業経費について市が関与しているのは妥当である。	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 市民及び各種事業開催を対象としているのは妥当である。また意図についても、芸術文化維持のための専門職員を配置することにより市民が参加しやすい環境が整うので妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 職員の業務配分等を見直し、生涯学習課の事業である各種講座・文化事業等をを移譲することにより、事業拡大を目指していく。	
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 専門職員の不在は、文化芸術の振興衰退に影響する。	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 同左
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 事業経費は、必要最小限の内容である。	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 最低限の人件費で対応している。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 市民全体、文化芸術の振興を対象としているので、公平公正は保たれている。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	文化事業等の専門職として、より集客のできる、また市民ニーズにあった講座・コンサート等の独自事業を実施し成果の向上を図るように生涯学習課・桃源文化振興協会と協議をはかる。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可 ☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果) (2) 改革改善案について ①お金を払ってでも市民が楽しめる・学べる独自事業の検討 ② ③		(3) 改革・改善による方向性 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要 (5) 事務事業優先度評価結果 <table><tr><td>成果優先度評価結果</td><td>⑫</td></tr><tr><td>コスト削減優先度評価結果</td><td>①</td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐			成果優先度評価結果	⑫	コスト削減優先度評価結果	①
		コスト水準																										
		削減	維持	増加																								
成果水準	向上	☐	☐	☐																								
	維持	☐	☒																									
	低下	☐																										
成果優先度評価結果	⑫																											
コスト削減優先度評価結果	①																											